

平成28年8月19日

柏市立南部中学校

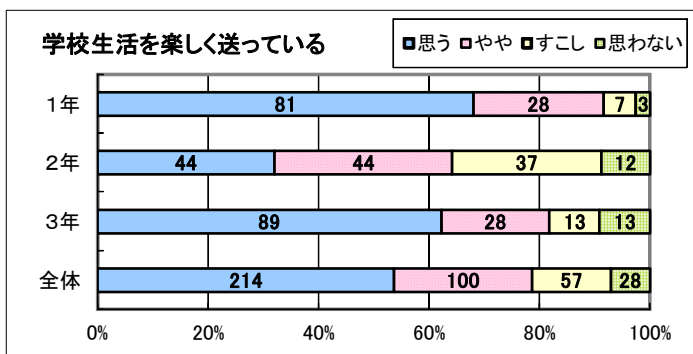
保護者回収率 71.8% : 回答数 297 名

生徒回収率 96.1% : 回答数 399 名

平成28年度1学期・学校自己評価分析

1. 学校生活の満足度<生徒> ☆経営重点

目標90% 現在78.7%

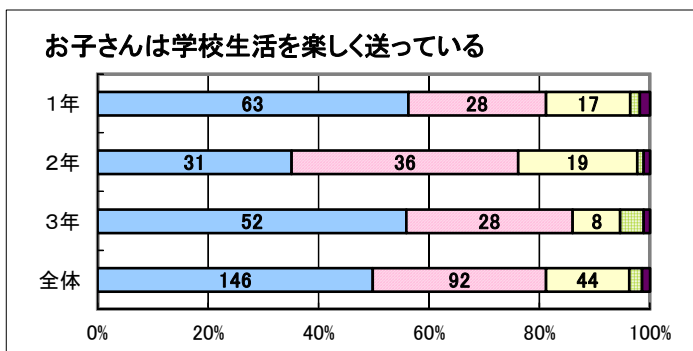


本年度の重点目標として、「誰もが学校に来ることが楽しい」とする学校作りとしたが、1学期の結果は、1年生 88.6%、2年生 61.5%、3年生 78.5%であり、各学年とも達成目標の90%に至らなかった。全校で85名(21.3%)の生徒が、学校が楽しくないとしている。

85名の生徒について、引き続き、原因を分析し粘り強く対策を講じていきたい。(大切に)

昨年度の同時期は全校で否定回答が78名(18.7%)であった。保護者の回答も同様の傾向が見える。また、別紙経年変化を見ても概ね80%前後を推移している。90%まで高める為に努力したい。

<保護者>



2. 本年度の重点目標から

H26年度から、「学校へ来ることが楽しくない」と回答した約20%の生徒の原因を分析し、その対策を継続的に実行している。学校が楽しくないとする原因を以下の4点に絞った。本年度も1学期の評価分析も関連項目について行いたい。

- (1) 授業がわからない(学力向上プラン)
- (2) 目標生活が苦手(目標を見失う)
- (3) 集団が落ち着かない(凡事徹底プラン)
- (4) 人間関係作りが苦手(思いやり向上プラン)

H28年度スローガン

「変わる南部中
伸びる南部中」

(1) 仮設：授業がわからない 目標 各学年柏市学テ標準スコア50 現在-2.6

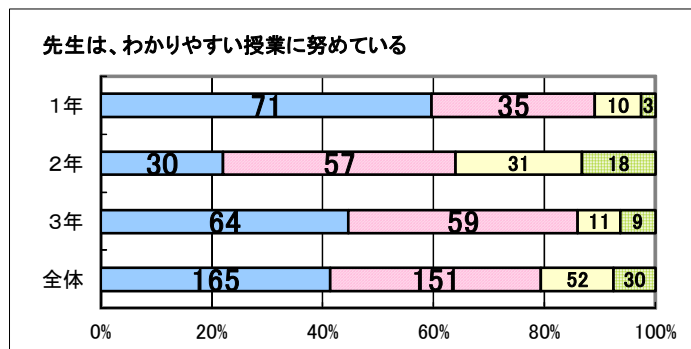
学校が楽しくないとする原因の一つに、授業がわからない事が考えられる。生活の大半を授業が占める学校生活では、授業が理解できないで参加していると苦痛でしかない。保護者の期待に対するストレスもあり、様々な面で影響している。

① 授業の理解度

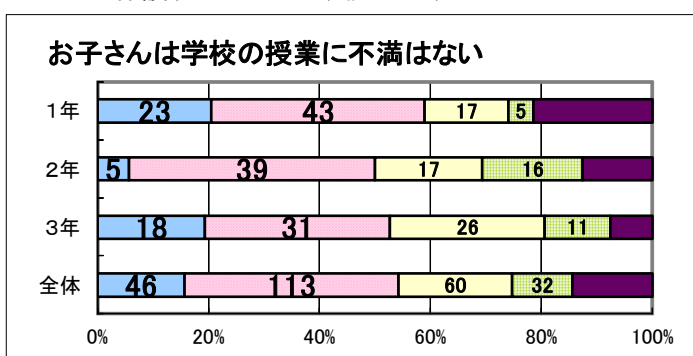
< H28 生徒アンケート >

(数値は人数)

生徒アンケートの結果は、2学年の数値が低い。昨年度は全校で82名(20%)の否定回答であったが、本年度も同様に82名(20.6%)であった。学校が楽しくない生徒と一致する。



< H28 保護者アンケート > (数値は人数)

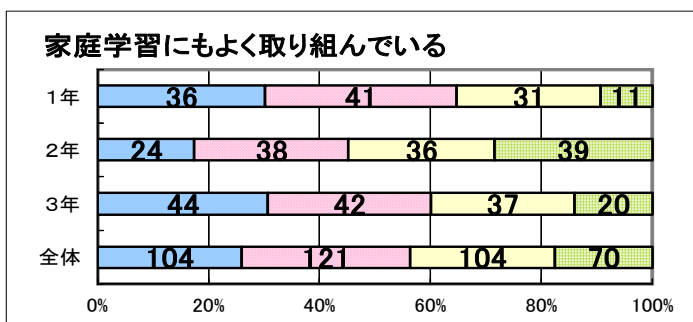


保護者は更に厳しく、学校の授業に期待するところが大きいと考える。否定回答は、昨年度91名(30.7%)本年度は92名(31.0%)であった。成績不振の原因を学校の授業に求める傾向は例年通りであるが、生徒よりも数値は低い。

② 家庭学習習慣

< H28 生徒アンケート >

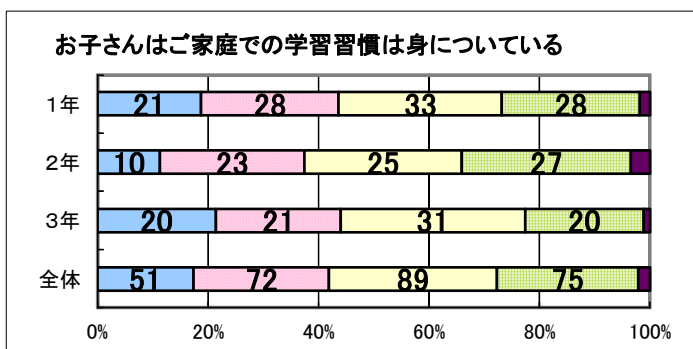
(数値は人数)



家庭学習の問題は柏市でも問題になっている。否定回答は、昨年度生徒35.6%(159名)保護者57.1%(169名)に対し、本年度も生徒43.6%(174名)、保護者は55.2%(164名)であった。生徒の否定回答が増えている。本校も家庭学習が大きな課題であると言える。

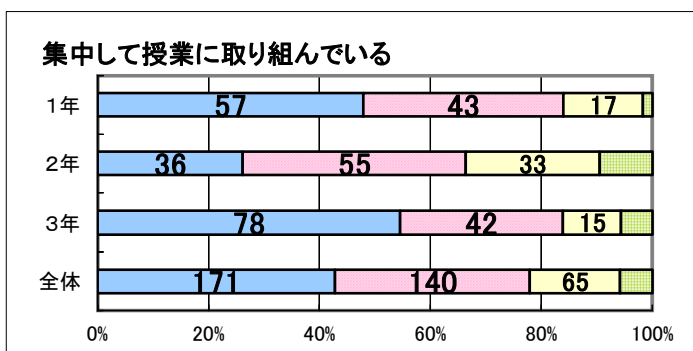
< H28 保護者アンケート >

(数値は人数)



本年度、別調査で家庭学習時間が他校に比べても平均1時間少ない。学習方法の指導を行い、主体的に学習できる能力を育成する必要がある。また、宿題を効果的に活用する。授業が理解できても定着率が低くテストの結果が出ない。その結果、学習嫌いが増加している。

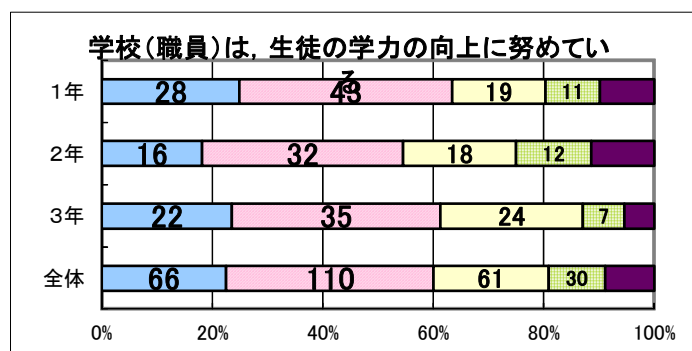
③ その他（学力向上に関して）



生徒はとても良く授業に取り組んでいる。78%の生徒が肯定的な回答である。否定的な生徒は、授業がわからないと回答している。

本校の特徴は、生徒及び保護者共に学校の授業に依存する傾向が強い。また本年度は、特に2年生の授業が緊急の課題でもある。

保護者の「学力向上」に関する意見は、昨年度よりも向上したが30.6%の保護者が否定的な回答であった。学力向上について、更に具体的な施策プランの実行と広報活動及び結果を出す必要がある。宿題を求める声が目立った。



(2) 仮設：人間関係の希薄さ 長欠生徒目標3%以内 現在 2.2%

学校が楽しくない原因の一つに、人間関係の希薄さが考えられる。思いやりの重要性についての生徒の認識は高くなったが（別紙資料）実行経験が未だ低い。いじめ調査（1学期）に於いても、特に冷やかしかからかい、暴言等の日常生活に於ける人間関係作りの軽薄さが原因と思われる事例が大変多い。

長期欠席生徒については、具体的な方針を打ち出し重点的に取り組んでいる少しずつ成果が見られる。

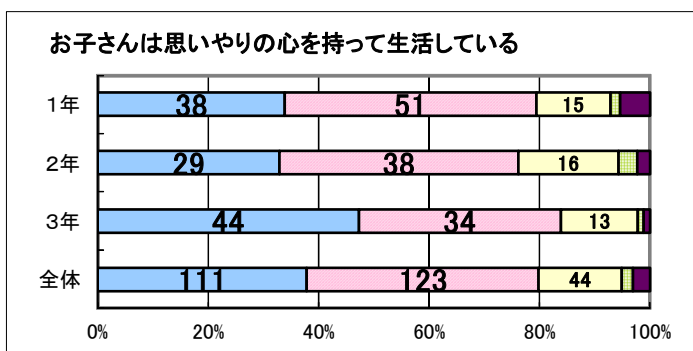
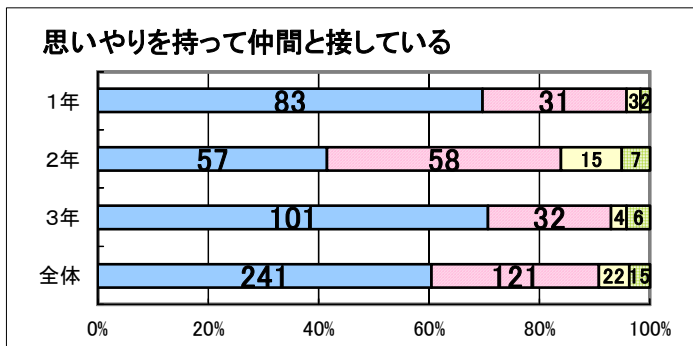
いじめ調査（1学期）	件数	未決
H26年度	39	1
H27年度	17	2
H28年度	10	2

7月/長欠報告	7日以上	15日	全欠席
平成26年度	6名	12名	2名
平成27年度	11名	13名	3名
平成28年度	5名	9名	1名

本年度15日以上欠席者10名は、1年生1名、2年生2名、3年生6名となっている。内、後半に登校の兆しを見せている生徒が1名。しかし例年の傾向で、9月に欠席が増加する。学級に於ける人間関係作りを中心に、今後も新たに増やさない施策を継続したい。

① 思いやり 目標値 90% 現在 90.7%

重点目標の一つである「思いやり」について



思いやりを持って仲間と接しているかという質問に対して、特に生徒は高い評価である。否定回答は、生徒 9.3%、保護者は 20.1% である。昨年度は生徒 7.9%、保護者 17.2% 否定であり若干落ちてしまった。

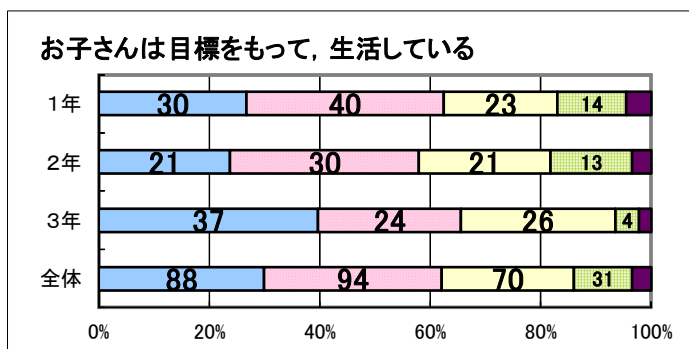
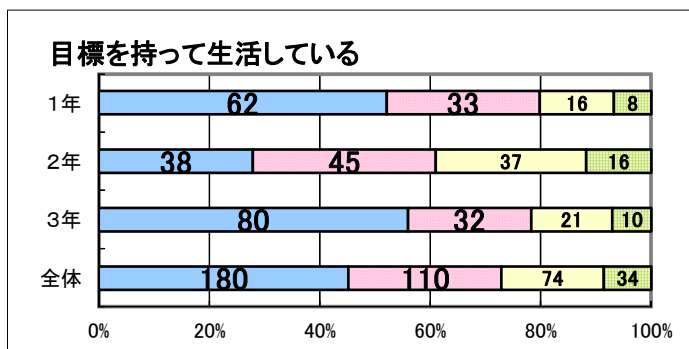
本校の特徴として、生徒個人では思いやりの気持ちを大切にしているが、人間関係作りに苦手な生徒は自分の意思に関係なく、他に追従する傾向が特に学年が下がるほど見られる。

自分の意見を素直に表現できない生徒が多く、行動にも表れている。集団において、日常の指導や道徳等の指導を見直し、何が正義かを示しながら、集団指導に力を入れる必要がある。

② 目標生活 目標 80% 現在 72.9%

昨年度に比べ、特に保護者の否定回答が大きくなった。本年度否定回答は生徒 27.1%、保護者 37.9%、昨年度は、生徒 23.5% 保護者 12.5% であった。

何事に対しても、教師から「意味を説明し。意義を見いださせ、価値付け」を行う実践を行っているが効果が出ていない。小さな目標を与え活動に意味づけを行う必要がある。本校の生徒には「充実感・達成感」が重要である。その為にも、評価を工夫し、充実感を与えることで、学校が楽しくなる。



(3) 仮説：集団が落ちつかない（凡事徹底ﾌﾟﾗﾝ）

① 基本的な生活習慣について 目標は80% 清掃活動85.4%△

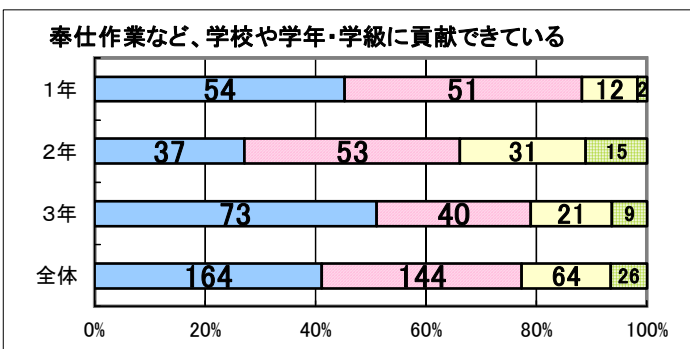
質問項目（内容）	保護者肯定評価		生徒肯定評価		着目
	H27	H28	H27	H28	
規範意識（自分）	88.5%	85.7%	92.1%	89.4%	▼
礼儀正しさ	46.6%	53.6%			△
挨拶			84.8%	86.7%	△
身だしなみ	56.4%	64.9%			▼
環境整備・清掃	64.5%	68.6%	85.4%	85.4%	=
時間			89.5%	85.4%	▼

アンケートについては、自分以外の評価である事に留意して考える。保護者評価に於いて昨年度よりも礼儀正しさと身だしなみ、清掃についての評価が上がっている。基本的な凡事の部分であり、南部中スタンダードの徹底を図りたい。清掃活動に高い評価が出ているが生徒の目標値が低い。全ての面でこの点を考慮して改善を要する。

★生徒指導件数（軽微な指導を除く統計） 左：H26 中央：H27 右：H28

指導統計（報告のみ）	4月			5月			6月			7月		
特別指導（保護者来校）	2	1	0	0	1	4	1	2	0	0	0	3
学年指導（学年内対応）	42	15	10	30	6	5	10	9	5	5	1	8

(4) その他 一点突破（集団への所属意識の向上） 目標80% 現在77.4%
自己肯定感本校ではとても重要（生徒指導面）

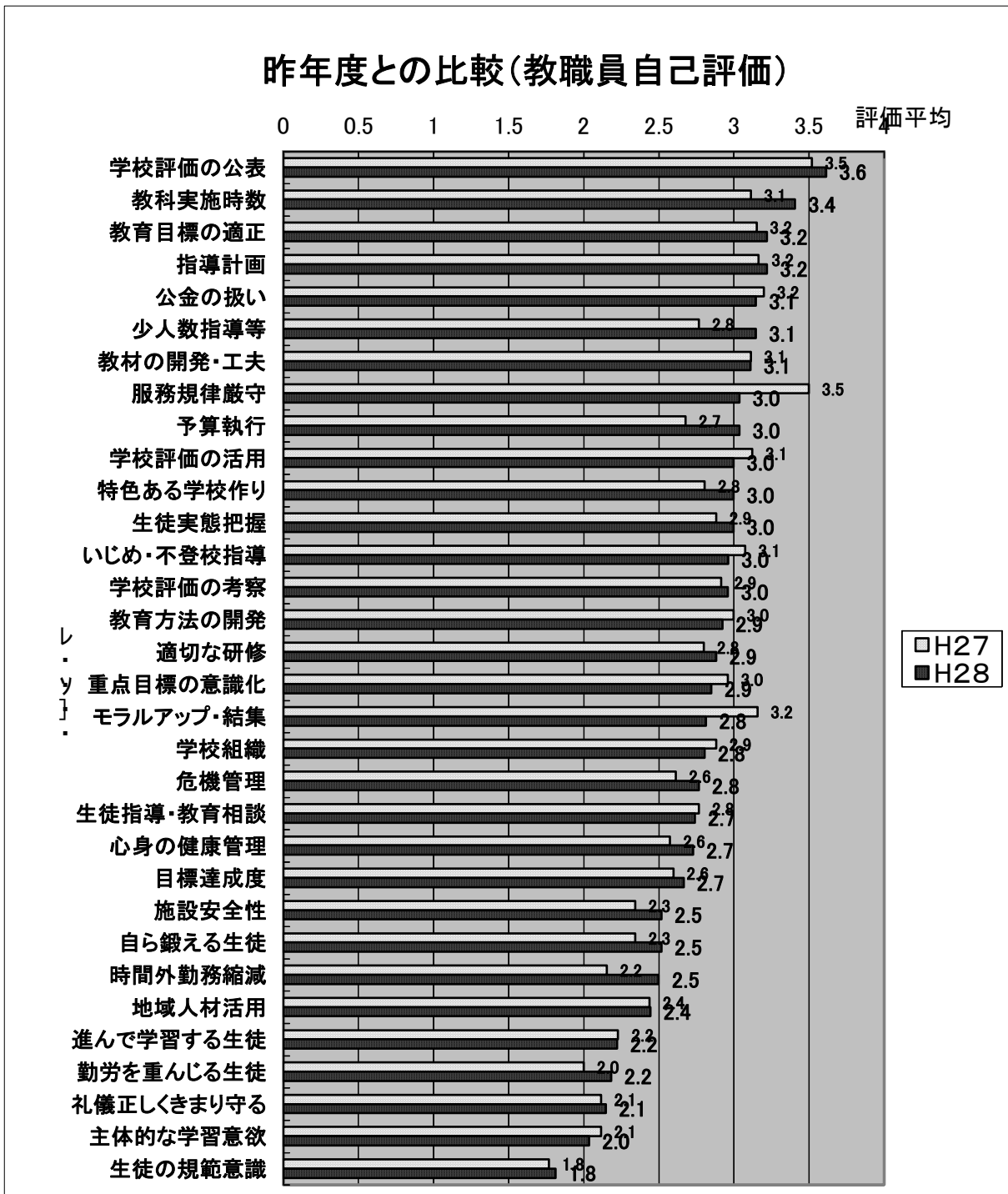


集団への貢献度を見てみると肯定回答が77.4%とやや低い。奉仕作業等、学校やクラスのために貢献することは、自己肯定感につながる。集団への所属意識を高めることも、個に対する指導ではとても大切である。「自分は必要とされている人間だ」と思えるように、様々な活動の中で、得意分野で輝けるように「一点」に絞っても、最後までやり遂げさせたい。

行事（体育祭→合唱祭）や日常の生活において生徒の良いところを見つけ、集団に貢献できる様に仕掛ける。（生徒活動を重点化したい）

3. 教職員アンケートから

(本年度良いスコア順に並び替えたグラフ)



▼ 0. 4 Point 下がった項目

- ・ 服務規律 (3.5 → 3.0)
- ・ モラルアップ・結集 (3.2 → 2.8)

▼ 評価 2. 2 以下の項目

- ・ 進んで学習する生徒 (2.2)
- ・ 勤労を重んじる生徒 (2.2)
- ・ 礼儀正しくきまりを守る (2.1)
- ・ 主体的な学習意欲 (2.2)
- ・ 生徒の規範意識 (1.8)

★特に基本的な生徒指導面（身だしなみ等）の指導を見直したい。

4. 2学期の具体的な重点施策（取り組み）

4月の重点施策より

以上の点から、2学期の重点的な取り組みを提案します。この重点について各学年及び各分掌組織にて更に具体的な策を話し合い、出来る形で進めて下さい。3年間の推移を見ると1学期よりも2学期と各重点プランの効果は表れます。2学期の重点は、1学期の継続と生徒を前面に出した指導としました。生徒達と共に「効果」を検証し、来年度の「成果」につなげたいと思います。

★以下に挙げる施策は、2学期の重点です。（その他の施策については継続）

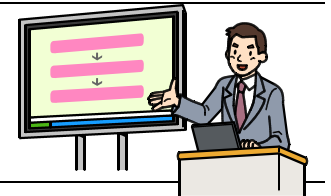
2学期の重点（生徒を前面に出した指導を工夫）

生徒活動の活性化（教師は放任指導に注意。生徒に達成感を与えながら）

- ・特に委員会活動の見直しと改善を行い、リーダー生徒の意識を変える。
- ・教師は、生徒に対して「具体的な意味付け」と「適切な評価」を重視する。

(1) 学力向上プラン

- 学力観の転換（協調学習の積極的な導入）（研究部）
- 家庭学習の工夫・家庭学習ノート等（学年）



(2) 凡事徹底プラン

- 5分前着席運動（学年・生徒指導部）←特に昼食開始時
- 時限出席簿の徹底・全職員で取り組む意義（生徒指導部）
- 朝と帰りの黙想運動の徹底・全学級で取り組む意義（生徒指導部）

(3) 生徒活動活性化プラン

- 一点突破・自己有用感の向上・本校に最も大切な指導（学級担任・学年）
- 南部中生活のきまりの見直しと指導（生徒指導部）★管理育成的指導の見直し

(4) 思いやり向上プラン

- 思いやり重点週間及び小中連携思いやり集会の完全実施（生徒会本部）
- 道徳の授業の重視・全職員で取り組む意義（道徳推進教員・学年）

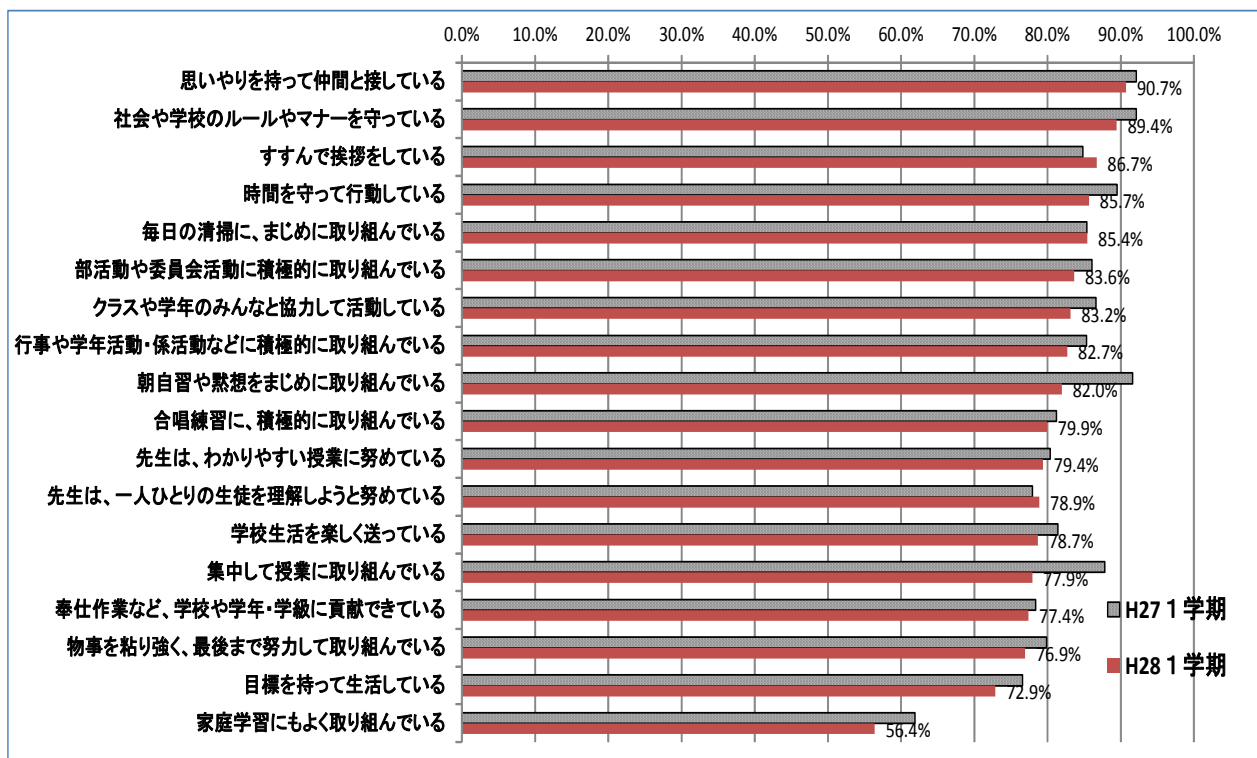
(5) その他

- 意味を説明し、意義を見だし、諸活動の価値付けを行う。★本校は特に重要必ず小さな「目標」を与え、必ず正しい「評価」を与える諸活動（学年）
- 新たな長欠生徒を出さない。（長欠担当・生徒指導部・学年）★3%維持
- 整頓された学校環境の整備（教頭・管理部・学年）
- 生徒による授業評価の実施計画案（教頭・教務主任）

「変わる南部中・伸びる南部中」 Team 南部

<参考> 昨年度1学期との比較

(1) 生徒自己評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 96.1% : 回答数 399 名



(2) 保護者評価アンケート結果 (肯定評価) 回収率 71.8% : 回答数 297 名

